

調査研究協力者会議における議論の中間的な取りまとめ

平成 28 年 10 月 31 日
保育士のキャリアパスに係る研修体系
等の構築に関する調査研究協力者会議

はじめに

- 保育士は、子どもの保育や家庭での子育ての支援等に関する専門職として、保育所における中核的な役割を担うことが制度的に認められており、的確な子どもの理解、専門的知識・技術の向上や倫理観に裏付けられた判断・対応が求められている。
- 近年、子どもや子育てを取り巻く環境が変化し、保育所に求められる役割も多様化・複雑化する中で、保育士には、より高度な専門性が求められるようになっており、日々の保育士としての業務に加え、各種の研修機会の充実によって、その専門性を向上させていくことが重要となっている。
- 現在、保育現場においては、園長、主任保育士の下で、初任後から中堅までの職員が、多様な課題への対応や、若手の指導等を行うリーダー的な役割を与えられて職務にあたっており、こうした職務内容¹に応じた専門性の向上を図るための研修機会の充実が特に重要な課題となっている。
- 以上のような状況を踏まえ、本協力者会議では、一般から中堅の保育士を対象とした地方公共団体や保育団体が実施する研修について、保育現場で必要な専門性や研修事例等を踏まえつつ、保育士のキャリアパスを見据えて、リーダー的な役割を求められる職員への研修として体系化する方向での議論を行い、以下のとおり、中間的な議論の整理として取りまとめた。

1. 研修分野・時間数

- 現在、保育現場において専門的な対応が求められている分野としては、「乳児保育²」、「幼児教育³」、「障害児保育」、「食育・アレルギー対応」、「保健衛生・安全対策」及び「保護者支援・子育て支援」の6分野が考えられ、これらの分野におけるリーダー的職員の育成のための研修が必要となっている。

¹ 社会福祉法人日本保育協会の「保育士のキャリアパスに関する調査研究報告書」（平成26年度）において、保育士の技能について、「①できない」「②教えてもらってできる」「③自分の力でできる」「④他の保育士を指導できる」「⑤保育士の集団や組織、園全体をリードできる」という5段階に分類するものがあるが、本協力者会議では、園内研修や初任者研修により①②の技能を習得した後の、③④の段階にスキルアップする保育士を対象とした研修について検討を行った。

² 主に0歳から3歳未満児向けの保育内容を念頭に置いたもの。

³ 主に3歳以上児向けの保育内容を念頭に置いたもの。

- また、リーダー的職員としての一定の経験を経て、主任保育士の下でミドルリーダーの役割を担う立場の保育士に対しては、マネジメントやリーダーシップに関する研修が必要である。
- このほか、専門的な分野別の研修とは別に、保育所における実習経験の少ない保育士試験合格者や潜在保育士が受講できるような「保育実践」の研修を設けることも考えられる。
- 研修の時間数については、現在、都道府県で実施されている中堅保育士に対する研修の時間数等を踏まえると、上記8分野それぞれ15時間程度（2日～3日程度）を目安とすることが適当である。
- 上記の各分野における研修を「保育士キャリアアップ研修（仮称）」として、保育士の研修体系に位置づけていくことで、保育士の研修機会の充実を図ることが適当である。具体的な研修内容のイメージとしては、別紙のようなものとすることが考えられる。

2. 研修の実施方法

- 研修の実施にあたっては、講義形式のほか、演習やグループ討議等を組み合わせることにより、より円滑かつ主体的に受講者が知識や技能を修得できる。効果的な演習やグループ討議を行うため、各園の創意工夫や課題を持ち寄って、自園の保育内容と関連付けた研修内容とすることなどが考えられる。
- 研修を階層化し、標準的な内容の研修のほか、より高度な内容の研修を設けることも考えられる。
- 研修の受講後にレポートを提出させることや理解度を確認するためのテストを実施することなどにより、研修内容を着実に身に付けられるような工夫をすることも考えられる。

3. 実施主体

- 実施主体については、広域的に実施する必要があるため、原則、都道府県とすることが適当と考えられる。政令指定都市や中核市も実施主体とすることがどうかについても、検討が必要と考えられる。
- 多くの受講ニーズに対応するためには、都道府県が適当と認める団体に委託する方法のほか、保育団体や保育士養成施設等が実施する研修を都道府県が認定する方法等も考えられる。

4. その他

- 「保育士キャリアアップ研修（仮称）」の創設にあたっては、研修機会を保障するため、必要な環境整備を行うべきである。
- 将来的には、特定の分野について、より高度な専門性を持つ保育士を評価する仕組みを検討することが必要と考えられる。
- キャリアパスと研修体系の構築は、保育士が職場に定着しやすい環境整備となるほか、身に付けた技能が評価されることにより、人材交流の活性化による多様なキャリア形成や離職した後の職場復帰の促進等でも有効と考えられる。

分野別研修の内容（イメージ）

※具体的な研修内容については、引き続き、幅広く検討

分野	内容	具体的な研修内容（例）
<p style="text-align: center;">乳児保育 (主に0歳から3歳未満 児向けの保育内容)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○乳児保育の意義 ○乳児保育の環境 ○乳児への適切な関わり ○乳児の発達に応じた保育内容 ○乳児保育の指導計画、記録及び評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の役割と機能 ・乳児保育の現状と課題 ・乳児保育における安全な環境 ・乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境 ・他職種との協働 ・乳児保育における配慮事項 ・乳児保育における保育者の関わり ・乳児保育における生活習慣の援助や関わり ・6か月未満児の発達と保育内容 ・6か月から1歳未満児の発達と保育内容 ・1歳児の発達と保育内容 ・2歳児の発達と保育内容 ・保育課程に基づく指導計画の作成 ・観察を通しての記録及び評価 ・評価の理解及び取組
<p style="text-align: center;">幼児教育 (主に3歳以上児向け の保育内容)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育の意義 ○幼児教育の環境 ○幼児の発達に応じた保育内容 ○幼児教育の指導計画、記録及び評価 ○小学校との接続 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育の役割と機能 ・幼児教育の現状と課題 ・幼児教育と児童福祉の関連性 ・幼児期にふさわしい生活 ・遊びを通しての総合的な指導 ・一人一人の発達の特性に応じた指導 ・他職種との協働 ・資質と能力を育むための保育内容 ・個々の子どもの発達の状況に応じた幼児教育 ・保育課程に基づく指導計画の作成 ・観察を通しての記録及び評価 ・評価の理解及び取組 ・小学校教育との接続 ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの理解 ・保育所児童保育要録

分野	内容	具体的な研修内容（例）
障害児保育	<p>○障害の理解</p> <p>○障害児保育の環境</p> <p>○障害児の発達の援助</p> <p>○家庭及び関係機関との連携</p> <p>○障害児保育の指導計画、記録及び評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等の理解と援助 ・ 知的障害児の理解と援助 ・ 発達障害児の理解と援助 ・ 障害児保育に関する現状と課題 ・ 障害児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境 ・ 障害のある子どもと保育者との関わり ・ 障害のある子どもと他の子どもとの関わり ・ 他職種との協働 ・ 肢体不自由児、視覚・聴覚障害児等の発達と援助 ・ 知的障害児の発達と援助 ・ 発達障害児の発達と援助 ・ 保護者や家族に対する理解と支援 ・ 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成 ・ 小学校等との連携 ・ 保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録 ・ 個別指導計画作成の留意点 ・ 障害児保育の評価
食育・アレルギー対応	<p>○栄養に関する基礎知識</p> <p>○食育計画の作成と活用</p> <p>○アレルギー疾患の理解</p> <p>○保育所における食事の提供ガイドライン</p> <p>○保育所におけるアレルギー対応ガイドライン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 ・ 食事摂取基準と献立作成・調理の基本 ・ 衛生管理の理解と対応 ・ 食育の理解と計画及び評価 ・ 食育のための環境（他職種との協働等） ・ 食生活指導及び食を通じた保護者への支援 ・ 第三次食育推進基本計画 ・ アレルギー疾患の理解 ・ 食物アレルギーのある子どもへの対応 ・ 保育所における食事の提供ガイドラインの理解 ・ 食事の提供における質の向上 ・ 保育所におけるアレルギー対応ガイドラインの理解 ・ エピペンの理解と対応

分野	内容	具体的な研修内容（例）
保健衛生・安全対策	<p>○保健計画の作成と活用</p> <p>○事故防止及び健康安全管理</p> <p>○保育所における感染症対策ガイドライン</p> <p>○保育の場において血液を介して感染する病気を防止するためのガイドライン</p> <p>○教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発育・発達の理解と保健計画の作成 ・保健活動の記録と評価 ・個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（慢性疾患等） ・事故防止及び健康安全管理に関する組織的取組 ・体調不良や傷害が発生した場合の対応 ・救急処置及び救急蘇生法の習得 ・災害への備えと危機管理 ・他職種との協働 ・保育所における感染症対策ガイドラインの理解 ・保育所における感染症の対策と登園時の対応 ・保育の場において血液を介して感染する病気を防止するためのガイドラインの理解 ・保育所における血液を介して感染する感染症の対策と対応 ・教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインの理解 ・安全な環境づくりと安全の確認方法
保護者支援・子育て支援	<p>○保護者支援・子育て支援の意義</p> <p>○保護者に対する相談援助</p> <p>○地域における子育て支援</p> <p>○虐待予防</p> <p>○関係機関との連携、地域資源の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者支援・子育て支援の役割と機能 ・保護者支援・子育て支援の現状と課題 ・保育所の特性を活かした支援 ・保護者の養育力の向上につながる支援 ・保護者に対する相談援助の方法と技術 ・保護者に対する相談援助の計画、記録及び評価 ・社会資源 ・地域の子育て家庭への支援 ・保護者支援における面接技法 ・虐待の予防と対応等 ・虐待の事例分析 ・保護者支援・子育て支援における専門職及び関係機関との連携 ・保護者支援・子育て支援における地域資源の活用 ・「子どもの貧困」に関する対応

	内容	具体的な研修内容（例）
マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ○マネジメントの理解 ○リーダーシップ ○組織目標の設定 ○人材育成 ○働きやすい環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織マネジメントの理解 ・保育所におけるマネジメントの現状と課題 ・関係法令・制度についての理解 ・他専門機関との連携・協働 ・保育所におけるリーダーシップの理解 ・職員への助言・指導 ・他職種との協働 ・組織における課題の抽出及び解決策の検討 ・組織目標の設定と進捗管理 ・職員の資質向上 ・施設内研修の考え方と実践 ・保育実習への対応 ・雇用管理 ・ICTの活用 ・職員のメンタルヘルス対策

	内容	具体的な研修内容（例）
保育実践	<ul style="list-style-type: none"> ○身体表現に関する知識や技術 ○音楽表現に関する知識や技術 ○造形表現に関する知識や技術 ○言語表現等に関する知識や技術 ○教材等の活用及び作成と保育の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達と運動機能や表現に関する知識と技術 ・子どもの経験や表現活動と様々な表現を結びつける遊びの展開 ・様々な遊具や用具、素材や教材等の特性の理解、活用及び作成 ・子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成と保育の展開